

2016年7月25日
サンケイリビング新聞社

東日本大震災被災地復興支援企画を 19 のホテル・レストランで開催 「食事 de チャリティー」に寄せられた 103 万 9490 円の支援金を寄贈しました

サンケイリビング新聞社(所在地: 東京都千代田区、代表取締役社長 和田 直樹)では、東日本大震災の被災地復興支援企画「食事 de チャリティー」を2月26日~4月30日に、首都圏の19のホテル・レストランの協力を得て実施。このたび、参加者から集まった支援金103万9490円を東日本大震災ふくしま子ども寄附金とあしなが育英会に寄贈しました。



「食事 de チャリティー」では、首都圏の19のホテル・レストランに、オリジナルのチャリティランチコース（一部ディナーコース）を設定してもらい、リビング新聞で紹介。料金の10%または15%を、東日本大震災の被災者支援のための支援金として寄付するというものです。

この企画に3101人が参加して食事をし、支援金の合計は103万9490円となりました。

サンケイリビング新聞社ではお預かりした支援金を2つに分け、仙台リビング新聞社を通じて「あしなが育英会」へ、福島リビング新聞社を通じて「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」へ、51万9745円ずつ寄贈しました。



仙台リビング新聞社 南雲泰美社長(左)から「あしなが育英会」事務所 若宮紀章課長へ

寄贈先 「あしなが育英会」若宮 紀章さんから

「震災遺児の心のケアの拠点となる“レインボーハウス”を仙台・石巻・陸前高田にオープンして約2年。多くの方にご来館いただき、震災・津波遺児らの心に寄り添うボランティアの養成にも力を入れてきました。今後もニーズの変化や子どもたちの成長に応じて、柔軟にカタチを変えながら支援を続けていきます。この度は本当に、温かなご寄付をありがとうございました」



福島リビング新聞社・渡邊博之社長(右)から「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」須藤浩光子ども未来局長へ

寄贈先 「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」須藤 浩光さんから

「本県の子どもたちに心を寄せてくださり感謝申し上げます。お寄せいただきました善意は、震災により保護者が死亡したり行方不明となった児童(孤児・遺児)に対する支援に加えて、福島県の子どもたちがさまざまな困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただきます。今後ともご理解とご支援をお願いいたします」

■本リリースに関するお問い合わせ サンケイリビング新聞社リビング編集部
担当 飛田 TEL03-5216-9161

■関連サイト http://mrs.living.jp/k_news/article/2404347

